

報徳、育英下し頂点 男子

バスケット

(最終日、兵庫県立総合体育館)

バスケットボール男子決勝リーグの第4クォーター中盤。報徳のテーブスは、外したシュートの

こぼれ球を自ら奪う。スリーポイントに持ち込み72-68。右の拳で胸をたたき、ほえた。

「ほえるようなキャラじゃない。でもここで力を見せたいと、ずっと思っていた」。2年生エースは両チーム最多の32得点。育英を撃破した。

2戦全勝同士の競り合い。報徳は後半、コート全面を使った相手守備に圧迫され、逆転を許したが「追い込まれても一丸となる」とテーブス。西村らがオフエンスリバウンドを奪い、小林も強気に3点を決めた。

激闘を終え、田中コー子に汗をぬぐった。「まずは兵庫県で勝つのが最重要課題だった」

昨年まで全国高校選手権で3年連続の8強入り。立役者となった身長208センチのゴンゴローらは今春卒業した。外国人

バスケットボール男子決勝リーグ・報徳-育英 第1クォーター、シュートを放つ報徳のテーブス(11)＝兵庫県立総合体育館(撮影・秋山亮太)



留学生不在で、190センチ未満の選手ばかりの今、シューターを外に配置するチームづくりを進める。

新たな挑戦の中でも

市尼崎 4大会連続V 女子

バスケットボール女子で混戦を抜け出したのは市尼崎だった。久保主将は「優勝は自分たちしかない」と信じていた」と安堵(あんど)した。

4校で争う決勝リーグの初戦では三田松聖と対決。市尼崎はゴール下の守りを固めて相手にスト

「報徳のモットーは変わらない」と中野主将。「バスケットを楽しみ、日本一を取る」。卒業した先輩からも、それを託されている。(藤村有希子)

レスを与え、速攻に持ち込んで逆転に成功した。最終日の神戸龍谷戦ではゾーン守備で敵を外角へと締め出し、スチール連発で波に乗った。

2019年まで3年連続して夏と秋の兵庫県大会を制したが、昨年は新型コロナウイルスの影響で

夏の大会が中止され、秋

は三田松聖に頂点を譲った。立て直しを図ろうと、選手らは練習ノートを交換して読み合い、仲間の思いやチーム状況への理解を深めてきた。

インターハイ切符をつかみ、先発の加波は「ミスを減らし、自分たちのプレーをして全国ベスト8を目指す」と力強かった。(藤村有希子)

【男子】近畿代表決定リーグ 村野工80-51明石清水、市尼崎88-86関学
▽決勝リーグ
報徳 85
24112921
11232021
75 育英

三田松 63
11102121
18101613
57 神戸科
技

▽順位 ①報徳②育英③三田松聖④神戸科⑤村野工、明石清水、市尼崎、関学(報徳は全国高校総体に出場)

▽最優秀選手 中野椋太(報徳)▽優秀選手 長瀬高斗(テーブス流河(以上報徳))喜多海斗(育英)市原良也(三田松聖)宮下昂士(神戸科)

宮下敦貴(村野工)竹内准哉(明石清水)杉村英都(市尼崎)山下晃(関学)

【女子】近畿代表決定リーグ 神港学園55-52園田、日ノ本71-62神戸星城
▽決勝リーグ

市尼崎 76
18171625
235 2213
63 神戸龍谷

三田松 76
15232018
24151013
62 宝塚西

▽順位 ①市尼崎②三田松聖③神戸龍谷④宝塚西⑤神港学園 園田、日ノ本、神戸星城(市尼崎は全国高校総体に出場)

▽最優秀選手 久保美咲(市尼崎)▽優秀選手 加波夏希、鳥川希彩(以上市尼崎)森本愛彩(三田松聖)高橋楓(神戸龍谷)山田美空(宝塚西)梅野萌乃佳(神港学園)沖村知奈(園田)浅倉彩華(日ノ本) 広渡香奈(神戸星城)